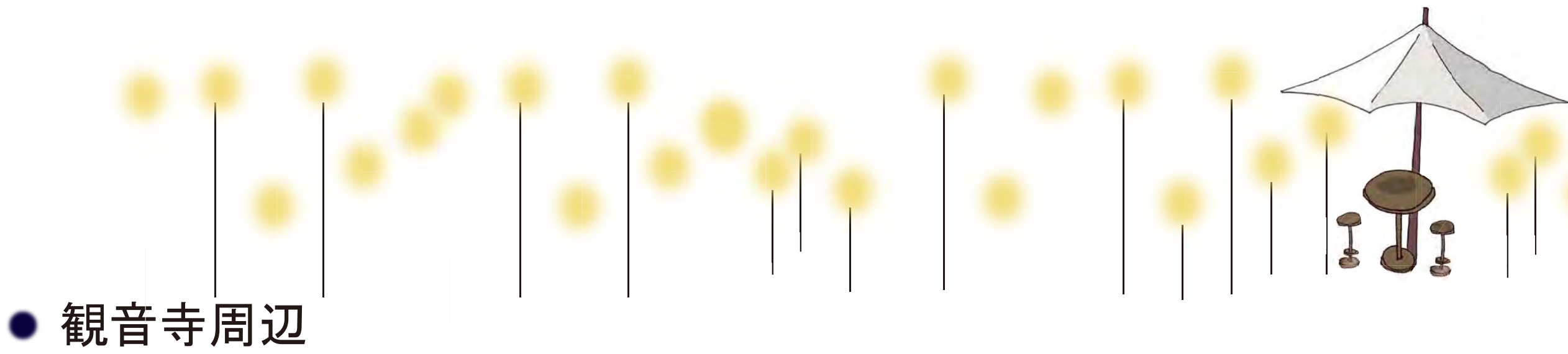


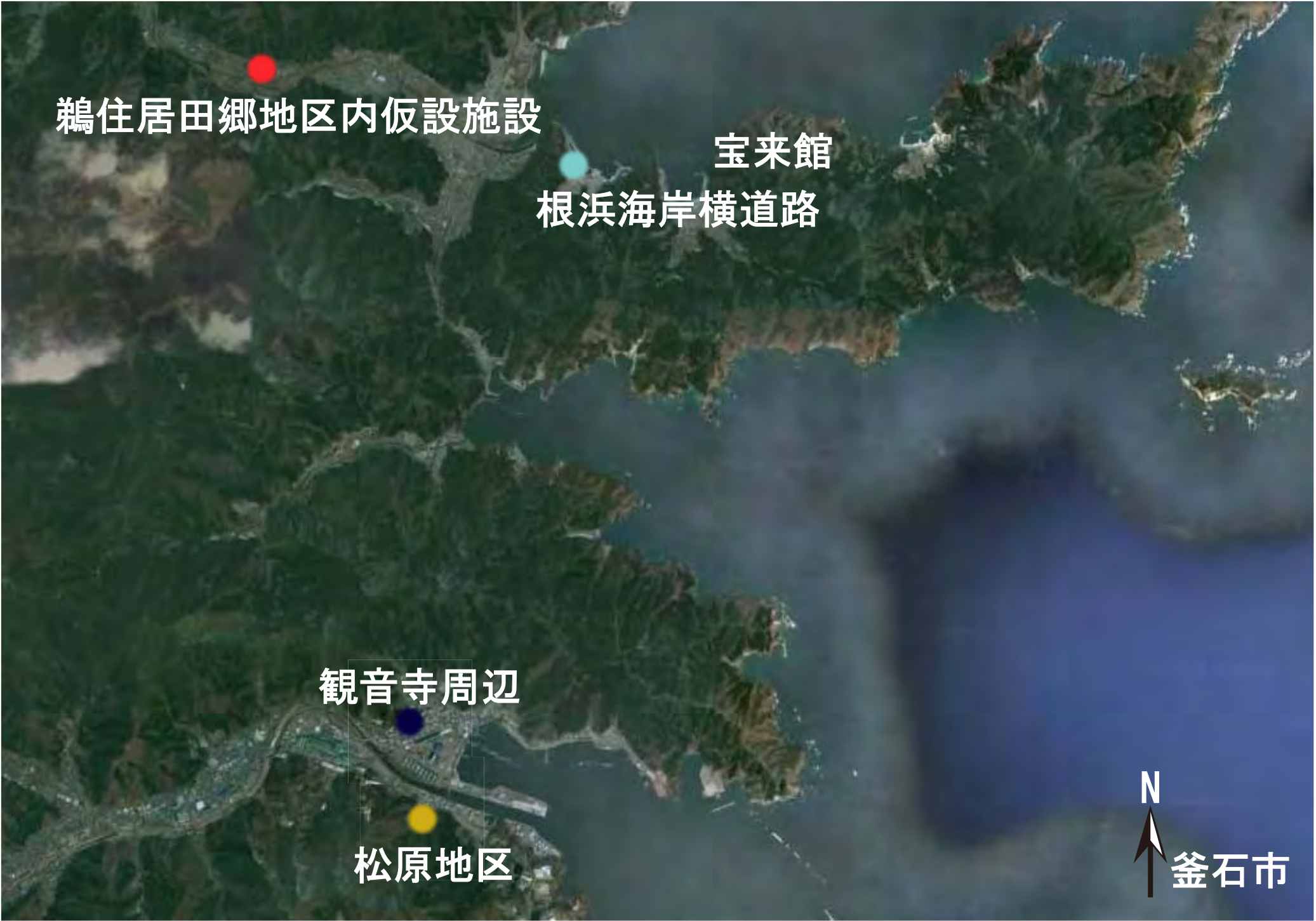
釜石における震災復興のための 光環境整備への提案

東日本大震災により被災した岩手県釜石市において、破壊され分断された地域や人々を、あかりによって繋いでいく。
そして、地域で求められているあかりの性能を調査し、提案することで、夜間の安全性や安心感、釜石らしさを生み出していく。



前博之 角館政英
小林茂雄

あかりの提案地域



防犯性の確保
釜石にあった夜間景観
釜石にあった夜間景観
交通安全の確保
高台避難の誘導

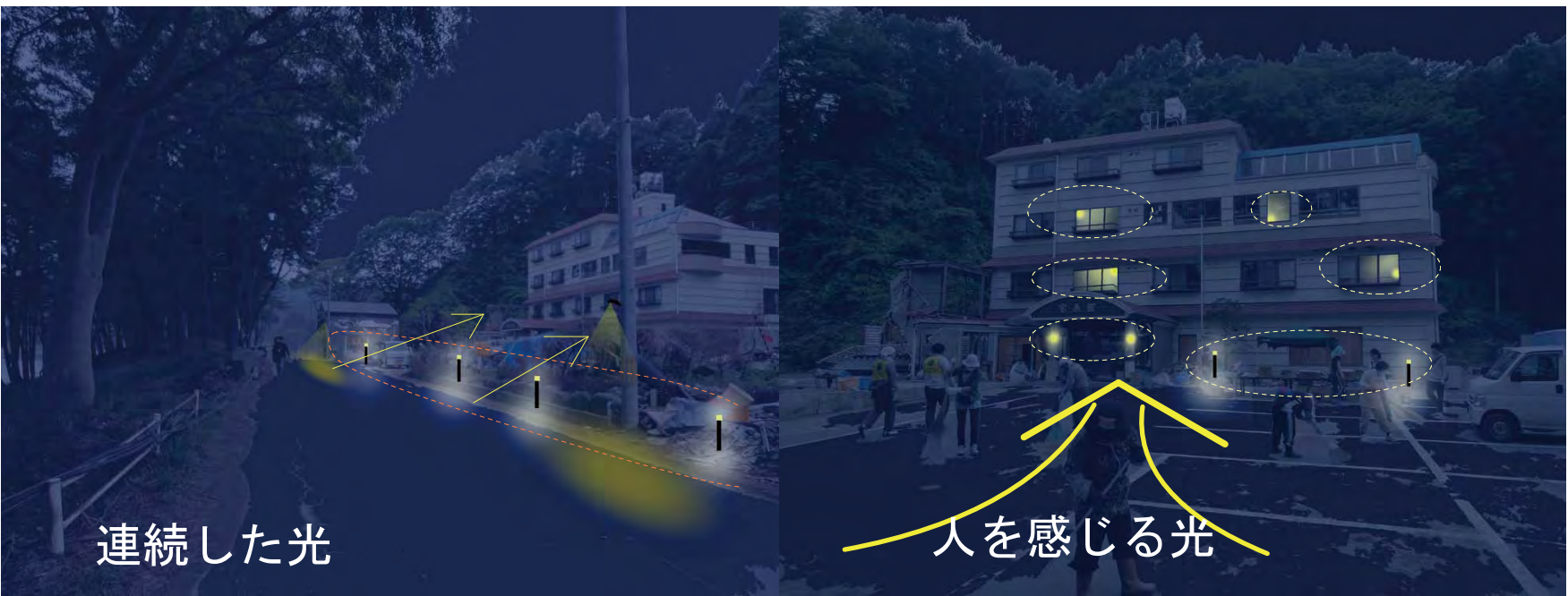
津波避難路の入口は、照明的にも日頃から認識されやすくする必要がある。そこで、観音寺への避難誘導を可視化し、合わせて観音寺周辺の光環境整備を行った。観音寺への避難路を可視化するために、歩道から階段へと連続する照明設置と、鳥居のライトアップ、周辺建物の暗闇を無くす照明を行った。

松原地区



交通安全の確保
高台避難の誘導
釜石にあった夜間景観
防犯性の確保
釜石にあった夜間景観

松原地区では瓦礫の撤去が進んでおり、地区全体が坂になっていて、津波被害の境界が比較的是っきりしている。この地区には3本の道路が上に続いていて、どの道を通っても、松原神社の参道が見える。松原神社への避難誘導、松原地区の人気を感じるあかりの整備を行った。松原神社へ続く階段への照明設置と、鳥居のライトアップ、建物周辺の暗闇を無くす照明を行った。



津波から生き残った旅館に、人気（ひとけ）を感じるあかりと避難誘導のあかりを設置。夜間の安心感を生みだし、再び人が集まれるような場所に。

根浜海岸横道路



交通安全の確保
釜石にあった夜間景観
防犯性の確保
釜石にあった夜間景観

現状では一つもあかりが無く、真っ暗な道路である。そこで、道を照らすのではなく、松林にあかりを設置し、夜間交通の安全性を確保すると共に、景観的にも美しく釜石独自の景観を浮かび上がらせる。

分断された地域、人々をつなぐあかり



宝来館での居場所づくり



仮設商店街でのワークショップ



あかりによって物理的にも精神的にもつながっていく

地域の特性を生かし、求められている性能を満たすあかりづくり



夜間の安心感や安全性
釜石らしさを生み出す